PFAS（ピーファス）汚染の問題について

野原和夫

町長　引き続き水質の確認をしっかり行い、安心で安全な水道水の供給に努める

問　発がん性が指摘される有機フッ素化合物PFASによる河川や、地下水の汚染が広がっている。金属メッキや半導体など幅広い産業に利用されてきた。2009年以降、日本でも製造が禁止されたが、長期間にわたる放置が原因で汚染が拡大したと考えられる。

国が今年4月に公表した全国の河川や地下水などの検出状況によると、22都道府県の計242地点で国の暫定指針値（1リットル当たり50ナノグラム）を超えていた。本町におけるPFOS及びPFOAの測定結果について伺う。

答　水道水では、自己水源の七重川浄水場系・椚平浄水場系で、1リットル当たり5ナノグラム未満。和田、本郷の2ヶ所の県水受水場では、原水で2ナノグラム以下、浄水で1ナノグラム以下。河川では、番匠・本郷境に位置する川北橋付近で採水し、令和6年度は1ナノグラムであった。引き続き水質の確認を行い、安心で安全な水道水の供給に努める。河川についても取り組み、住民に公表していく。

※「町の計画の進捗状況は」についても質問した。

モバイルバッテリー（リチウムイオン電池）について

杉田健司

町長　各ごみステーション等に注意喚起のポスターを掲示する

問　比企管内、町内において、火災による事故は何件あったか。

答　比企管内でのリチウムイオン電池が起因する火災は2件、町内は発生していない。

問　有害ゴミとして回収されているが、どの程度回収されているか。

答　モバイルバッテリーのみでの収集は行っていないため、収集量は把握していない。

問　他のゴミと混在されて出されたケースはあったか。

答　現在、取り外したモバイルバッテリーは、「有害ごみ」として、機器と一体となっているものは、「金属類（小型家電製品）」として収集を行っている。他のごみからもモバイルバッテリーや小型家電製品の混入が確認されており、町としても町民への啓発を行っている。

問　町民への注意喚起、意識向上につながる広報等をどのように強化していくか。

答　火災事故を防ぐためには、分別ルールを守り適切に排出していくことが最も重要と考えている。広報での注意喚起、ポスターの掲示等を行っていく。

※「学校の防犯カメラ、盗撮について」も質問した。

リチウムイオン電池の適切な分別についてのポスター

食農教育について

小宮　正

教育長　目的と方法について研究する

問　ときがわ町では、食農教育に取り組んでいる。本町の各小学校では、さつま芋やジャガイモ栽培、田植え等いろいろな野菜作りに取り組んでいる。

明覚小学校では、田植えを行っているが、田植えの前に泥んこ大会や野菜のつかみ取り体験をさせ、子どもに食に対して関心を持たせる機会を与えるべきと考えるが、町の考えを伺う。

答　現在、各小学校において、総合的な学習の時間を活用し、体験学習として米作りを行っている。児童が実際に田んぼに入り、田植えから稲刈りまでの過程を体験し、米作りの苦労を知ると共に、米の大切さを学習している。

また、野菜の収穫体験についても学校敷地内や近隣の畑で、低学年や特別支援学級などが、ミニトマト、なす、キュウリ、かぼちゃ、ジャガイモ、さつま芋などを育てている。米や野菜を育て収穫することにより、食への関心がより一層深まると考えている。

提案いただいた泥んこ大会や野菜のつかみ取り体験については、目的、方法等を研究していく。

泥んこ大会

渡邉一美町政2期目の公約達成状況及び次期町長選出馬について

畑　豊

町長　来年2月の町長選に立候補し3選を目指す

問　「女性が輝くまちに」について伺う。

答　広報紙で「町で頑張る女性」を紹介した。都幾川公民館図書室で「男女共同参画」の企画コーナーで男女共同参画社会の重要性もPRしている。また、女性の方には、町の様々な審議会委員会等で女性委員が増えているので、女性に益々輝いてもらいたい。

問　「SDGs環境に配慮した持続可能なまちに」について伺う。

答　令和4年12月に令和32年までの二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指し「ゼロカーボンシティ共同宣言」を表明している。また、第二次ときがわ町環境基本計画の達成状況は、18指標の内、3指標が達成している。今後もSDGs環境に配慮した持続可能なまちを目指す。

問　今後の町政の取組みは。

答　第二次総合振興計画の後期基本計画を着実に推進させ「優しさ溢れるまち」を実現させたい。

問　来年2月の町長選に立候補し3期目を目指す考えはあるのか。

答　今まで築きあげた施策をより充実させるため町長選に立候補する決意である。